51

古典籍展観大入札会目録データベース

鶴見大学 文学部 ドキュメンテーション学科

特別実習 5班

【目的】

【内容】

【結果】

【まとめ】

東京古典会主催古典籍展観大入札会目録データベース化について 3班

鶴見大学 文学部ドキュメンテーション学科 3年 特別実習Ⅰ

3班構成メンバー

大橋菜・窪田敬・佐藤綾香・高柳絢香・吉田真覚

はじめに

①なぜデータベースかを目指したか

【東京古典会主催古典籍展観大入札会目録(※1) 利用者の利便性向上を目的】

・目的の古典籍を容易に検索できるように。

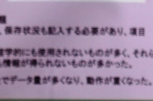
・書誌情報の画像をすぐに参照できるように。

・紙の目録の場合

・刊行年や著者名などの書誌情報が項目分けされておらず、何について書かれているのか不明なものが多い。

・画像も別紙に順不同で掲載されているため参照しにくい。

・A4サイズで真数が多く、閲覧や持ち運びがしにくい。



七十紙の目録では古典籍の目録と画像が別紙に順不同で掲載。

環境依存文字&TeraPadで表記されなかった字(一部)は

②なぜHTMLでの制作になったのか

・班員全員に同じ分量の作業量を分配する際、共通知識として授業で習ったHTMLを採用した。(※2)

③作業を行うよでの問題点

・目録の記入方法・項目の違い、それにより起こる問題

→しみや汚れなどの図書館では使用しないような、保存状況も記入する必要があり、項目立てなどが困難だった。

→それぞれの用語や略号、漢字に、一般的・図書館学的にも使用されないものが多く、それらを調べることが困難だった。また、調べたとしても情報が得られないものが多かった。

・データベースをhtmlにしたが、画像なども入れることでデータ量が多くなり、動作が重くなった。

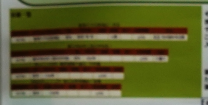
④改善点と考察

・初期段階では検索機能を検討していたが、環境依存文字も多く、検索側が目的の本の字を入れるのが不可能ではないかと判断した。そのため、検索機能を取りやめ、一覧で探してもらうスタイルを取った。

・TeraPadで表記できなかった字は、別のテキストエディタを経由して表示。
またはサイト『漢典』※3で調べ、Unicodeを参照、検索し表示。(例：資料番号325『祝』 Unicode『U+20926』)
調べても出なかった字は元の目録のPDFから字を切り取り画像を貼り付けた。
(例：資料番号420『刹』)

・教授のアドバイスにより、画像の容量も無料のソフトウェアを利用し、画像の縮小に成功した。

・読み仮名の表記も考慮したが、古典籍は当て字も多く、そもそも読み方が難しく学生での判断が出来なかったので表記を断念した。



← 初期案
検索で使いやすいように
デザインを作った。
この時点では書籍は複数に
入れていなかった。

最終決定 →
複数を入れる為、CSSを変更し、
また、古典籍のID毎に
新規のページを作った。

参考文献

Accessによる『古典籍展観大入札会目録』～はじめに～のデータベース化

皆さまは東京古典会主催の大規模なオークションが存在していることをご存知でしょうか？

この入札会では毎回約2000点もの作品が出品されており、その中には貴重なものが出品されることもあります。ですが、出品情報は書籍の目録で販売されており、目録利用者が目的に合った情報を探すには時間と労力がかかってしまいます。

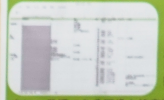
そこで、私達はこの目録をデータベース化することによってより効率的に出品情報にアクセスできるよう、試みました。

～目標～

・画像、書誌情報を一覧で見れるようにしたい

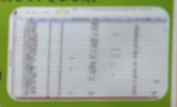
・文字検索をできるようにする

～制作過程～ accessにアクセス！！



最初はExcelで入力を始めました。
目次が12種類に分類されていたため
連続する二種類ごとに担当を割り振り、
それぞれの特色を把握するために項目は
担当が各自で入力していきました。

次に、目標である画像と検索機能を付けるために、ExcelからaccessへのUPDATEをしました。
この際にそれぞれの特色を生かしながら項目を統合し、入力を続けました。
ですが、accessは2GBしか容量がないため画像が入らなくなる問題が起きました。



そこで画像を圧縮できるフリーソフトのCaesiumを使い、画像の容量をさげ、さらに画像の簡略化により無事一つのデータベースとしての運用ができるようになりました。

～おわりに～

今回は班員全員が使えるofficeの一つであるaccessを使ったため導入がスムーズに進みました。そして目標である二つとも達成することができました。
ですが検索機能を充実させられなかったこと、同じタイトルの本の情報が比較できるようにならなかったことを反省点です。

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科3年 4班 御守・小林・佐藤・古川・渡邊

はじめに

東京古典会古典籍展観大入札会のカタログには、書籍付けでなく、地図やカルタなど様々な古典籍が収録されています。こちらのカタログは、本来紙手書で配布され、近年ではpdfファイルにまとめられて画像データとして閲覧できるようになりました。
しかし、選び出す際に直接検索しなければならないのは、従来の紙手様と同様です。もちろん、眺めるのも楽しみ一つ一つ選ぶ楽しさもありますが、読者が探している古典籍を即座に見つけることは難しく、またその後の貸出・研究への活用にも不便な点が多く存在しました。
では、この問題を解決するにあたってどのようなエ夫がめられ、それによって従来のシステムに対してどのように進展化が図れるのでしょうか。

書誌学研究者待望の古典籍データベース

書誌事項を計21項目に細分化

資料番号	書名	著者名	著者名フ	出版年	版元	出版者	ジャンル	形態
学術	状態	大項	綴じ	大きさ	旧蔵先	印記		

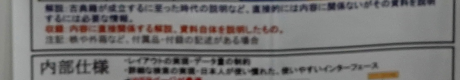
欠落：丁が欠けているもの、途中巻が抜けている　印記：朱印や蔵書印など、また実際に印記のあるものなど、完全に所蔵先に存在しないもの。　記述内容がある場合はそれも含める。

相入・記入	合本	無入	解説	収録	注記

解説：古典籍が成立するに至った時代の説明など、直接的には内容に関係ないがその資料を説明するには必要な情報。
収録：内容に直接関係する解説、資料自体を説明したもの。
注記：帙や外箱など、付属品・付録の記述がある場合

内部仕様

・レイアウトの実装・データ量の検討
・詳細な検索の実装・日本人が使い慣れた、使いやすいインターフェース
→WEBページが最適



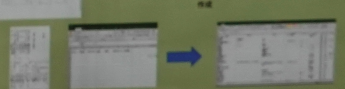
まとめ

古典籍入札目録データベース化

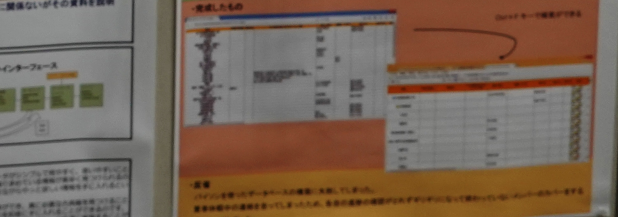
鶴見大学文学部 ドキュメンテーション学科 3年 2班 大下 由真 大島 みなみ 横井 亜紀 笹尾 真優 高橋 山崎 久美

・目標

・制作過程



・完成したもの



・反省